

## はじめに

今年度も、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染が続き、令和3年中に第5波までの感染拡大が続きました。そして、各学校において感染対策が続けられる中で、本研究連合も活動を行ってきました。そのため、本連合における今年度の活動は、新型コロナウイルス対策により、会議等の制限や縮小を行いながらの取組となりました。

研究大会については、当初からの予定で休止し、この機に今後の研究大会の在り方を決定する重要な年となりました。協議において様々な意見を出しながら検討を続けた結果、大会を再開する令和4年度からは、

- 1) 隔年開催とすること
  - 2) 午前中は、大会を担当する地区による全体会をリモート開催とすること
  - 3) 午後は、各障がい種別教育研究部会による分科会を開催すること
- などを決定し、令和4年度の担当である西都・児湯地区から再開することとなりました。

また、これまで、「地区ブロック」としていた地区割りを「地区エリア」とし、県教育委員会が進めるの「エリアサポート体制」と合わせることにしました。これにより、「都北・西諸県ブロック部会」が、「都城・北諸県エリア部会」と「小林・西諸県エリア部会」に分かれることになりました。さらに、障がい別部会のうち、「難聴・言語障がい教育研究部会」が「聴覚障がい教育研究部会」と分かれて活動を行うことになりました。そして、これらの組織等改正に伴い、規約等の改正を検討し、書面開催方式により実施した総会において決定しました。

昨年度から今年度にかけて、コロナ禍の中、活動が難しい状況ではありましたが、そうした機会を生かして、研究大会を抜本的に見直したり、組織改編を行えたりしたことは、有意義であったと考えます。

社会全体も、このコロナ禍により大きな転換点を迎えることになりました。これまで当たり前だったことがいかに貴重なものであったかを痛感する日々です。しかし、そのことにより、何が大切なのかを真に考える良い機会でもあったと思います。例えば、ICT活用の推進をはじめとする社会の変化は、今回のことがなければさらに遅れたかもしれません。また、地球規模で物事を考える起点ともなり、SDGsといった世界の潮流を後押しする機運も高まりつつあるように感じます。

同様に、特別支援教育においても、何が大切なのかを見つめながら、これからの共生社会に向けた教育の在り方を追求していかなければなりません。まだまだ課題が山積する中、本連合のさらなる発展を願いながら活動を続けていければと思います。

結びにあたり、県教育委員会をはじめ市町村教育委員会や関係諸機関の皆様の御理解と御支援に感謝申し上げますとともに、本研究連合のますますの発展を期して巻頭の挨拶といたします。

令和4年3月

宮崎県特別支援教育研究連合  
会長 酒井 裕市  
(みやざき中央支援学校長)

令和3年度 「会誌」第27号  
目次

はじめに

県特研連のあゆみ

I 宮崎県特別支援教育研究連合組織

- ・ 令和3年度 研究組織

II 事業方針及び研究計画の概要

- ・ 令和2年度収支決算報告
- ・ 令和3年度事業の概要

III 県特別支援教育連合 各研究部会活動報告

- ・ 視覚障がい教育研究部会
- ・ 聴覚障がい教育研究部会
- ・ 難聴・言語障がい教育研究部会
- ・ 情緒障がい教育研究部会
- ・ 知的障がい教育研究部会
- ・ 病弱教育研究部会
- ・ 肢体不自由教育研究部会

IV 県特別支援教育連合 各エリア部会活動報告

- ・ 宮崎・東諸県エリア部会
- ・ 日南・串間エリア部会
- ・ 都城・北諸県エリア部会
- ・ 小林・西諸県エリア部会
- ・ 西都・児湯エリア部会
- ・ 日向・東臼杵エリア部会
- ・ 延岡・西臼杵エリア部会

V 令和3年度 全国大会報告

- ・ 第96回 全日本盲学校教育研究大会（栃木大会）
- ・ 第55回 全日本聾教育研究大会（島根大会）
- ・ 第50回 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会（山梨大会）
- ・ 第60回 全日本特別支援教育研究連盟全国大会（和歌山大会）
- ・ 第67回 全国肢体不自由教育研究協議会（富山大会）
- ・ 第62回 全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会（奈良大会）
- ・ 第53回 全国情緒障害教育研究協議会（東京大会）

VI 令和3年度 九州地区研究大会報告

- ・ 九州地区盲学校教育研究会（長崎大会）
- ・ 第26回 九州地区聴覚障害教育研究大会（宮崎大会）
- ・ 第45回 九州地区難聴・言語障害研究大会（宮崎大会）
- ・ 第55回 九州地区特別支援教育研究連盟研究大会（熊本大会）
- ・ 第58回 九州地区肢体不自由教育研究大会（宮崎大会）
- ・ 第61回 九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会（佐賀大会）
- ・ 第49回 九州地区情緒障害教育研究大会（福岡大会）

VII 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会と宮崎県特別支援学校教育研究会の活動報告

- ・ 宮崎県小・中学校特別支援教育研究会
- ・ 宮崎県特別支援学校教育研究会

VIII 宮崎県特別支援教育研究連合 規約・細則

おわりに

# 宮崎県特別支援教育研究連合のあゆみ

## 「宮崎県特殊教育研究連盟設立趣意書」

※注) 「宮崎県特殊教育研究連盟」は本連合：  
宮崎県特別支援教育研究連合の旧名称

盲教育に端を発した本県の特殊教育は、国における制度的な整備とともに、施設、設備の面においても、また教育内容・方法等においても年々充実が見られ、障がいのある児童生徒の可能な限りの社会参加を目指した教育が推進されているところであります。この間の関係者の献身的な取り組みに対し心から感謝申し上げます。

しかしながら、近年、児童生徒の障がいの重度重複化・多様化傾向や障がいを取り巻く環境の変化に伴う保護者の意識の高まり等が見られ、これまで以上に多くの課題が見られるようになっております。中でも、個に応じた教育課程の編成・実施、後期中等教育の充実、適正就学、進路指導の充実等に係わる課題は喫緊の課題としてその具体的な対応を迫られているところであります。

このような状況の中、小・中学校において特殊教育に携わっている教師や盲・聾・養護学校の教師の間から、一堂に会して課題解決を図ることが効果的であり、そのために共通の場を設置することが必要であるとの声が聞かれるようになってまいりました。しかし、こうした思いは度々話題となりながらも、その実現は機が熟するところまでにはいたらず今日まで持ち越されてきたところであります。

幸い、平成7年1月「盲・聾・養護学校教育研究会」が設立されたのを機に、連盟発足の機運が高まり、ここに「宮崎県特殊教育研究連盟」が発足する運びとなった次第であります。38年という輝かしい歴史をもつ「宮崎県特殊教育研究会」と専門的な機関の持つ機能が相互にその特性を生かしていくことにより、これまで以上に多様かつ深い課題解決が推進され特殊教育の振興・発展が期待できるものと確信いたします。

本連盟は、こうした経緯の中、多くの関係者の願いをもとに設立されたものであり、その具体的な目的、活動等は規約に示すとおりであります。特に次のようなねらいをもって組織されたものであります。

- 一、研究活動を通して重度重複化・多様化した児童生徒の指導のあり方を探るとともに個々の教師の資質向上を図る。
- 一、それぞれの立場から現状認識をもとに将来をも含めた特殊教育の課題とその解決策を探り、特殊教育のより一層の充実を図る。
- 一、地域における教育活動を推進し特殊教育の更なる活性化を図る。

全国的にあまり例を見ない試みであるだけに、この組織を生かし育てていくには多くの困難も予想されます。会員一同、本会発展のために努力していく所存ではありますが、教育委員会をはじめ各関係機関には本連盟の趣旨をご理解いただき、本会が意義のある組織として発展しますよう各段のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

(平成7年2月：設立総会にて)

設立時の主旨は、今も変わることなく我々の進むべき道を照らしてくれています。そして特殊教育から特別支援教育への移行に対応した組織とするために数カ年の検討期間を経て、平成16年度に組織改編、平成17年度に名称変更、平成18年度に研究大会をブロック部会によるローテーション開催で行うこと(平成20年度より開始)について取り決め、先輩方が築かれた財産を伝承していきながら、新しい時代に対応した組織となるよう本連合は進んでいきます。

(平成18年度 加筆)

共生社会の形成に向けた特別支援教育の取組が進展していく中で、成立時の主旨は大きな意味を持ち続けています。本連合は、設立から四半世紀が過ぎました。会運営の中で出てきた課題改善のため、令和2年度に本連合システムの検討を進めました。

令和3年度から、「ブロック部会」を「エリア部会」に移行します。「エリア部会」は、宮崎県のエリアサポート体制を踏まえ、組織改編を行います。

また、令和4年度からさらに特別支援教育の専門性を重視した研究大会を実施していきます(隔年開催)。運営をエリア部会(事務局校は知的障がい支援学校)が担当します。研究大会担当エリアの事務局校をメイン会場として、「障がい種別部会」ごとに設けた会場からオンラインで大会に参加できるようにするとともに、各「障がい種別部会」が計画する研修を分科会の内容として行っていきます。インクルーシブ教育システムを構築し、自立と社会参加を見据えた連続性のある多様な学びの場をさらに充実していくために、宮崎県特別支援教育研究連合は今後も前進していきます。

(令和3年度 加筆)

表：宮崎県特別支援教育研究連合（宮崎県特殊教育研究連盟）のこれまで

期 日	場 所	会 議 名	内 容
6年 6月27日	宮崎県庁	宮崎県公立小・中特殊教育設置校長、並びに県立盲・ろう・養護学校長代表者会	役員選出
6年 8月12日	宮崎県庁	第1回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	基本方針
6年 9月22日	宮崎県庁	第2回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	組 織
6年10月29日	清武養護学校	第3回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	規 約
6年11月19日	清武養護学校	第4回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	規 約
6年12月12日	附属小学校	第5回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	総会運営
7年 1月28日	附属小学校	第6回宮崎県特殊教育研究連盟発足準備委員会	総会運営
7年 2月18日	清武養護学校	宮崎県特殊教育研究連盟設立総会準備会	役員等
7年 2月28日	宮崎市中央公民館	宮崎県特殊教育研究連盟設立総会	発足承認
16年 7月27日	宮崎市総合福祉保健センター	平成16年度宮崎県特殊教育研究連盟代議員会（総会）	組織改編承認
17年 7月27日	宮崎市総合福祉保健センター	平成17年度宮崎県特殊教育研究連盟代議員会（総会）	名称変更承認
20年 8月 7日	宮崎市佐土原総合文化センター	第12回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会 宮崎ブロック部会大会	研究大会のブロック部会によるローテーション開催開始
令和3年6月	新型コロナウイルス感染拡大予防のため書面議決にて開催	令和3年度宮崎県特別支援教育研究連合第1回理事会及び代議員会（総会）	組織改編（ブロック名称変更）承認